

令和8年度
琉球大学大学院 人文社会科学研究所
〔博士後期課程〕
学生募集要項

比較地域文化専攻

出願期間	令和7年12月10日(水)～12月16日(火)
試験日	令和8年2月7日(土)
合格者発表	令和8年2月27日(金)

本要項の記載内容に変更が生じた場合は、人文社会学部ホームページ
(<https://www.hs.u-ryukyu.ac.jp/>)でお知らせしますので、随時確認してください。

令和7年9月
琉球大学大学院 人文社会科学研究所

目 次

1. 研究科概要	1
2. 募集人員	4
3. 出願資格	4
4. 出願資格審査	5
5. 出願期間	6
6. 出願手続	6
7. 研究指導に関する事前相談	11
8. 試験の日時及び試験場	12
9. 選抜方法（入試科目）	12
10. 障がい等のある入学志願者（受験時における合理的配慮等）	13
11. 合格者発表	14
12. 入学手続等	14
13. 安全保障輸出管理	15
14. 修学のための諸制度	15
15. 個人情報の取扱い	15
16. 問い合わせ先	16
17. 入試統計（志願者数、合格者数）の公開	16
18. 過去問の開示	16
19. 成績開示請求	16
20. 研究指導教員一覧	16
21. 開設授業科目および授業科目の内容	18

●試験会場案内図

●試験場案内図

受験に関する問い合わせ先

琉球大学人文社会学部 学務係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL 098-895-8188（直通） FAX 098-895-8187

E-Mail hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学人文社会科学研究所 HP <https://www.11.u-ryukyu.ac.jp/graduates/>

琉球大学入試情報 <https://www.u-ryukyu.ac.jp/admissions/>

1. 研究科概要

(1) 目的

比較地域文化専攻は、本学及び本研究科に蓄積されている豊富な実績を最大限に生かした教育研究を行い、広い視野と国際感覚、地域社会や国際社会で活躍できる高度な専門的能力と総合的判断力を備えた研究者及び専門職業人の養成を目指します。

(2) 組織と特徴

比較地域文化専攻は、「琉球・沖縄」、「アジア」、「太平洋地域」「比較」をキーワードに、沖縄と周辺諸地域との関連性の解明と比較研究を行う各分野で構成される博士後期課程です。本専攻の目的に従って、ことばと相互行為、アジア文化人類学、アジア物質交流史論、沖縄近現代文学、環境思想、島嶼環境経済、島嶼空間システム、島嶼観光経済、政治学、近現代沖縄史学、特定言語研究、批判的談話研究、琉球史、朝鮮文学、歴史言語学、記述言語学（以上、博士論文指導教員担当分野）を中心に、さらにアメリカ太平洋史などの分野に関わる科目を提供します。

本専攻は、アジア太平洋地域の知の交流拠点として、地域性と普遍性を踏まえた新しい研究のパラダイムを構築し、その成果を沖縄から世界へ発信するものです。

(3) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 教育理念・目的

本学及び本研究科に蓄積されている豊富な実績を最大限に生かした教育研究を行い、広い視野と国際感覚、地域社会や国際社会で活躍できる高度な専門的能力と総合的判断力を備えた研究者及び専門職業人の養成を目指します。

2. 求める学生像

学生には、高度の専門的知識に加え、以下に示したような高度の調査能力、分析能力、応用能力等、総合的な能力を求めます。

- (1) 地域の現実的・実践的課題を学問的理論の応用によって解析し、解決の方法を導き出していく能力を持つ人。
- (2) 特定の分野の専門家としてだけでなく、琉球・沖縄と世界各地とをつなぐ具体的な課題について多角的な視点から解明していく能力を持つ人。

3. 入学者選抜の基本方針

研究科の特性に応じた多様な選抜を実施し、多様な背景を持つ学生を選抜します。

【一般選抜】

一般選抜は総合的な能力及び多角的な視点を重視し、高度の調査能力、分析研究能力、応用能力を評価することを目的に実施します。

外国語の筆記試験により、読解能力及びコミュニケーション能力を評価します。

口述試験・書面審査により、専門分野に関する高度な知識・能力、適性・意欲を評価

します。

【社会人特別選抜】

社会人特別選抜は総合的な能力及び多角的な視点を重視し、高度の調査能力、分析研究能力、応用能力を評価することを目的に実施します。

小論文により、読解能力及び専門的知識、分析能力を評価します。

口述試験・書面審査により、専門分野に関する高度な知識・能力、適性・意欲を評価します。

【外国人留学生特別選抜】

外国人留学生特別選抜は総合的な能力及び多角的な視点を重視し、高度の調査能力、分析研究能力、応用能力を評価することを目的に実施します。

小論文により、読解能力及び専門的知識、分析能力、日本語能力を評価します。

口述試験・書面審査により、専門分野に関する高度な知識・能力、日本語によるコミュニケーション能力、適性・意欲を評価します。

(4) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

〔教育課程編成の方針〕

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに基づいて、知識・技能・態度の能力を修得させるために、以下に示す方針に基づいて3年間一貫した教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

「琉球・沖縄」、「アジア」、「太平洋地域」、「比較」をキーワードに専門科目及び演習科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業科目を開講します。教育課程については、「博士学位取得プロセス」を用いて、その体系性や構造を明らかにします。入学時に学生の主たる教育を行う主指導教員1名、補助的教育を行う副指導教員2名以上を決定し、個々の学生のニーズにきめ細かな研究指導を行います。

〔教育課程における教育・学習方法に関する方針〕

講義科目、演習科目その他の適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるような効果的な教育方法を取り入れます。

研究指導は、研究指導の方法・内容及び1年間の研究指導の計画を定め、学生に対してあらかじめ明示し、適切に実施します。

高度な専門性、創造性、倫理性を段階的に習得できるようカリキュラムを編成しています。年次ごとの主な学習内容は次のとおりです。

- (1) 1年次～2年次は、専門分野を中心にさまざまな特論・演習科目を受講することで、各々の専門分野に関する知識、技能、思考法としての「専門性」を身に付けるのみならず、幅広い学問知を身に付けます。また、専攻全教員が参加する必修科目

「比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳ」を履修し、博士論文作成研究として構想して進めている課題もしくは認識について報告・質疑応答を受けると同時に、自由討論に参加する。この演習では専門分野のみならず他分野の視点からも指導を受けるため、学際的な学びができ、総合的判断力を身に付けます。

(2) 1年次後期～3年次前期には、「比較地域文化特別研究Ⅰ～Ⅳ」を履修し、博士論文の構想や先行研究の把握、関連資料の状況、フィールドワーク、論文の執筆に関する指導を受けることで、「創造性」を育み、知識、技能、思考を「独創性」「倫理性」をもって研究する能力を身に付けます。

(3) 3年次には、博士論文予備審査、学位審査を経て学位論文の公開審査を受けることで、深い専門性、豊かな創造性、高い倫理性を有する人文社会科学分野の研究者及び専門職業人としての基盤を身に付けます。

〔学習成果の評価の方針〕

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、基準となる目標を達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

特論・演習授業科目は、シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価します。

学位論文についての研究成果に係る評価に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行います。

博士論文については、「博士学位取得プロセス」に基づき、博士論文予備審査、学位審査を経て学位論文の公開審査により評価します。

(5) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

比較地域文化大学院教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学の大学院学習教育目標 URGCC-Advanced（琉大グローバルシティズン・カリキュラム・アドバンスド）に掲げる「専門性」「創造性」「倫理性」を身に付けさせるため、文化・社会における諸課題の解決に取組み、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成します。

そのような人材を育成するために、本大学院教育プログラムでは、次のような目標を達成した者に、博士（学術）の学位を授与します。

- ① 特定の分野の専門的知識だけでなく、「琉球・沖縄」、「アジア」、「太平洋地域」、「比較」に関連した、広い視野と国際感覚、また地域社会や国際社会で活躍できる高度な専門的能力と創造性の強い実践的能力が身に付いていること
- ② 高い倫理観に基づき、研究者として自立的・創造的に活動することができる能力、あるいは高度な専門職業人として自立的・創造的に活動することができる能力が身に付いていること

(6) 取得できる学位 博士 (学術)

(7) 修業年限 3年

(8) 履修方法

- ① 3年間で博士の学位が取得できるよう、「比較地域文化総合演習 (8単位)」と「比較地域文化特別研究 (8単位)」の二つの必修科目を中心に、選択科目 (8単位以上) と併せて計 24 単位を段階的、計画的に履修する。「総合演習」は総合的学際的な視野にたつて教育研究し、高度の専門職業に携わる能力を涵養できるよう主指導教員と副指導教員を中心とする複数の教員があたる集団指導体制の科目です。「特別研究」は、主指導教員と副指導教員を中心に実施する科目で、研究内容が該当する国内外の学会などでその評価に耐え得るよう、又は、該当する分野・業種で極めて有効な内容になるよう学期毎、年度毎に段階的に指導できるよう編成されています。いずれも複数指導教員制、集団指導体制による科目を中心にした科目編成です。
- ② 社会人特別入試制度により入学した者 (社会人) の履修上の便宜を図るための履修方法は以下によります。
 - ア. 通常の間時間帯のほか、特例による授業時間帯をもうけ、3年間の全期間にわたって、特例による授業時間帯において課程修了に必要な単位を履修できます。
 - イ. 特例による授業時間帯は、原則として夜間の第6, 7時限 (18時~21時10分) に設定します。場合によっては、土曜日及び特定の時期に設定することもあります。
 - ウ. 社会人学生以外の一般学生及び外国人留学生で、指導教員が必要と認めたものについても、上記特例に基づいて開講される授業科目を履修し、課程修了に必要な単位に含めることができます。

2. 募集人員

募集単位	募集人員 (社会人及び外国人留学生を含む)
比較地域文化専攻	4名

3. 出願資格

《A. 一般選抜》

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者若しくは令和8年3月31日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者若しくは令和8年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又

は専門職学位に相当する学位を授与された者若しくは令和8年3月31日までに授与される見込みの者

(4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者若しくは令和8年3月31日までに授与される見込みの者

(5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(以下「国際連合大学」という。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は令和8年3月31日までに授与される見込みの者

(6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)

○大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

○外国において、学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

(8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者又は令和8年3月31日までに24歳に達する者

《B. 社会人特別選抜》

一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者で、本課程入学までに大学卒業後又は学士の学位取得後4年以上、又は大学院修了後若しくは修士の学位取得後2年以上の社会的経験を有する者とし、有職者に限りません。

《C. 外国人留学生特別選抜》

一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者で、日本国籍を有しない者。

4. 出願資格審査

出願資格(6)～(8)に該当する者は、出願資格の事前審査を受ける必要があります。

書類提出期間 令和7年11月17日(月)～令和7年11月21日(金)

(郵送の場合は、令和7年11月21日(金)必着、持参する場合は、土・日曜日及び祝日以外の9時から17時(12時から13時を除く)の間。)

提出先 琉球大学人文社会学部学務係

結果通知 令和7年12月8日(月)までに本人宛て通知します。

必要書類

- (1) 入学資格個別審査申請書(本学所定の様式)
- (2) 出願理由書(本学所定の様式)
- (3) 経歴書(本学所定の様式)
- (4) 最終学校の成績証明書
- (5) 最終学校の卒業(修了)証明書又は在籍証明書
- (6) 研究業績報告書様式1(本学所定の用紙に、著書、学術論文、研究報告書、卒業論文等の業績の概要をまとめたもの。原著、論文抜刷又はそのコピーを添付すること。)
- (7) 研究経過報告書様式2(本学所定の用紙に、学校等卒業<修了>後の調査研究状況を詳細に記入したもの。)
- (8) 返信用封筒 返信先を明記し、410円分の切手を貼った封筒(長型3号)

5. 出願期間

令和7年12月10日(水)～12月16日(火)

6. 出願手続

(1) 出願書類

書類等名称	摘 要	一般 選抜	社会人 特別選抜	外国人 留学生 特別選抜
①入学志願票	「本学所定の様式」に必要事項を記入	○	○	○
②受験票・写真票	「本学所定の様式」に必要事項を記入し、写真は、出願前3か月以内に撮影した正面上半身無帽のもの(縦4cm×横3cm)を貼付	○	○	○
③修了・卒業(見込)証明書又は資格認定証	出身大学の学長(学部長・研究科長)が作成したもの	○	○	○
④成績証明書	出身大学等の学部長(学長等)が作成し、厳封したもの	○	○	○
⑤研究計画書	本課程で行う研究の目的、これまでの研究経過、今後の研究計画と研究方法、研究の意義等について、A4用紙(横書き、40字×30行前後)を使って5,000字程度の日本語でまとめたもの	○	○	○

⑥修士論文又は研究論文の写し	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文は審査段階でも可(その場合、①論文の目次、②現時点での完成原稿の一部(10~20ページ程度)、③論文概要(1,000字程度)を提出すること。なお、修士論文の正式な提出後には、別途最終版の写しを提出していただく場合があります。) ・修士論文(審査段階含む)又は研究論文の写しを提出できない場合は、特定の課題についての研究成果、提出予定の研究論文、調査・研究報告書いずれかとその要旨(1,000~1,200字)を提出してください。 ・修士論文が日本語・英語以外の場合は、提出方法を「16. 問い合わせ先」に確認のこと 	○	○	○
⑦日本語力調査書	「本学所定の様式」を用いること			○
⑧「住民票」の写し及び旅券(パスポート写し)	現に日本国に在住している外国人は、市区町村長発行の国籍、在留資格、在留期間が記載されたもの(マイナンバー記載なし)で、出願前1か月以内に交付されたもの	該当者	該当者	○
⑨検定料納付証明書(大学用)又は振込を証明できる明細書	入学検定料の振り込みについては「6.(5)検定料振込」を参照	○	○	○
⑩志願者整理票	「本学所定の様式」に必要事項を記入すること	○	○	○
⑪受験票等送付用切手(410円分)	110円切手1枚、300円切手1枚を同封すること	○	○	○
※ 注意事項	<p>ア. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者は、最終学校の成績証明書及び卒業(修了)証明書を添付してください。</p> <p>イ. 外国語の証明書には日本語の訳文をつけてください。</p> <p>ウ. 入学検定料は、日本政府(文部科学省)奨学金による外国人留学生については、納付する必要はありません。この場合、国費の留学生であることの証明書を添付してください。</p> <p>エ. 事前に出願資格認定を申請した者は、成績証明書を提出する必要はありません。</p>			

(2) 出願方法

人文社会学部ホームページ (<https://www.hs.u-ryukyu.ac.jp/>) に掲載している学生募集のお知らせから、本学所定の様式を各自でダウンロードし、印刷してください。

出願書類を「書留速達」で所定の期間内に提出先に郵送してください(令和7年12月16日(火)までに必着)。直接持参する場合の受付時間は、9時から17時(12時から13時を除く)までとします。ただし、土曜、日曜及び祝日は、受付をしません。

(3) 注意事項

- ① 出願書類を手書きで作成する場合は、黒のボールペンを使用すること。
- ② 出願後は、いかなる理由があっても出願事項の変更は認めません。
- ③ 出願後は、出願書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはできません。
(災害等により被災した志願者の検定料については、特例措置を実施(6.(6)))
- ④ 受験票が試験日の1週間前までに届かない場合、及び本研究科の選抜方法に関して照会する場合は、人文社会学部学務係(6.(4))に問い合わせてください。
- ⑤ 出願書類の偽造や内容の改ざん、記載と相違する事実が判明した場合は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑥ 志望する研究分野と教員の専門分野とのミスマッチを避けるため、出願前に該当する専門分野の教員に連絡を取ることを推奨します(7. 研究指導に関する事前相談)。

(4) 提出先

琉球大学人文社会学学部学務係

所在地：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

Tel：098-895-8188 Fax：098-895-8187

E-Mail：hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

(5) 検定料振込

- ① 検定料 30,000 円
- ② 振込期間：令和7年12月5日(金)～12月16日(火)

※ 国費外国人留学生及び令和8年3月31日に本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引き続き本課程に進学するものは検定料及び入学金を徴収しない。

- ③ 振込方法

振込は、a. 銀行窓口、b. ATM又はインターネットバンキングを利用することができます。なお、振り込みの際には金額の誤りに十分にご注意ください。

また、振込手数料については、志願者本人負担となります。

a. 銀行窓口

検定料振込書に必要事項を記入のうえ、検定料振込書に記載の「記入上の注意」をよく読み、最寄りの金融機関から振り込んでください。

※この募集要項添付の「検定料振込書」が使用できない場合は、各金融機関備付の振込依頼書で振り込んでください。

振込名義を必ず志願者本人にして、氏名の前に募集区分(人文社会科学研究科は711)を入力してください。

例)

7	1	1	タ	ン	イ	カ	ン	ク	タ	ロ	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

振込先口座、金額及び募集区分は「検定料振込書」で確認してください。

受領書の写しを「検定料納入証明書（大学用）」の代わりに提出してください。

b. ATM 又はインターネットバンキング

※振込名義を必ず志願者本人にして、氏名の前に募集区分(人文社会科学部は 711)を入力してください。

例)

7	1	1	タ	、	イ	カ	、	ク	タ	ロ	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

・氏名を記入した「検定料納付証明書（大学用）＊1」の原本及び「振込日時、振込金額がわかる明細や画面コピーの写し＊2」を志願書類に同封して提出してください。

＊1 「検定料納入証明書（大学用）」…検定料振込書の左端。取扱金融機関出納印は必要ありません。

＊2 「振込日時、振込金額がわかる明細や画面コピーの写し」の裏面に募集区分(711)・氏名を記入してください。

～海外からの支払いを希望する方へ How to Pay Student Fees from Overseas～

本学においては、海外からの学納金収納サービス (Convera GlobalPay) を導入しております。海外からの支払いを希望する方は、下記サイトにアクセスし、必要事項を入力の上、検定料の支払いを行ってください。

二次元コード



Convera GlobalPay for Students:

<https://students.convera.com/ryukyuc.ac.jp>

なお、当該サービスを利用する場合は、送金に時間を要することがありますので、納入期日に余裕をもって送金してください。

詳しくは、大学ホームページ内「How to Pay Student Fees from Overseas」をご覧ください。

For more details, please see "How to Pay Student Fees from Overseas" on the university website.

二次元コード



琉球大学ホームページ（授業料等）：

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/admissions/fee/>

④ 留意事項

ア. 検定料が振り込まれていない場合、「検定料納入証明書（大学用）」が出願書類に同封されていない場合、 a. 銀行窓口利用で「検定料納入証明書（大学用）」に取扱金融機関収納印がない場合及び b. ATM 又はインターネットバンキング利用で「振込日時、振込金額がわかる明細や画面コピーの写し」を志願書類に同封されていない場合

は、出願書類を受理しません。

イ. 既納の検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

1) 検定料を振り込んだものの、出願しなかった場合（出願書類を提出しないまま出願期間が終了したり、書類不備等により出願書類が受理されなかった場合）。

2) 誤って検定料を二重に振り込んだ場合。

3) 特例措置対象者が検定料を振り込んだ場合。

※返還手続きは WEB 上での登録となります。以下の二次元コード, URL から申請を行ってください。返還には請求情報登録後、1ヶ月程度かかります。

二次元コード



検定料払戻：請求受付 URL：<https://forms.office.com/r/5WGkRXi4Qc>

申請期限：令和8年3月31日（火）

お問い合わせ先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

琉球大学財務部経理課収入・支出係

TEL 098-895-8058

※上記3)に該当する場合は（6）③の手続を行ってください。

（6）災害等による入学検定料の特例措置

琉球大学では、令和8年度の大学院入学者選抜に関して、文部科学省より配慮依頼がある災害の被災者の経済的負担を軽減することにより、受験の機会を確保するため、以下のとおり特別措置を実施することとしましたのでお知らせします。

① 措置内容

検定料の免除：30,000円

② 免除の対象者及び必要書類

対象者	必要書類（写し）
1) 災害救助法が適用されている地域のうち文部科学省から配慮依頼がある災害で被災した志願者で、以下のいずれかに該当する者	ア又はイの書類
ア 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合	罹災（りさい）証明書
イ 主たる家計支持者が死亡、又は行方不明の場合	死亡又は行方不明を証明する書類
2) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者	被災証明書

- 文部科学省から配慮依頼がある災害等
 - ・東日本大震災関連情報：文部科学省 HP
(https://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/)
 - ・熊本県熊本地方を震源とする地震について：
文部科学省 HP (https://www.mext.go.jp/a_menu/kumamotojisin/index.htm)
 - ・その他の災害：文部科学省 HP
(https://www.mext.go.jp/a_menu/sonotajisin/index.htm)

③ 申請の方法

本学所定の様式（検定料免除申請書）に、罹災証明書等を添えて、出願書類とともに同封のうえ提出してください。

なお、申請する場合は、「検定料」を振り込まないでください。

④ 検定料を誤って納入した場合

本特例措置に該当するにも関わらず、誤って納入した検定料の返還を希望する場合は、本学所定の様式「免除申請書」及び「罹災証明書（写し）等」を下記送付先へ提出してください。提出後、検定料を返還します

検定料払戻：請求受付 URL：<https://forms.office.com/r/5WGkRXi4Qc>

二次元コード



※申請期限 令和 8 年 3 月 31 日（火）

（送付先）〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
琉球大学人文社会学部学務係
TEL 098-895-8188

7. 研究指導に関する事前相談

志望する研究分野と教員の専門分野とのミスマッチを避けるため、出願前に該当する専門分野の教員に連絡を取り、研究指導の適合性（研究テーマや指導体制の可否）や研究室の受け入れ状況について確認することを推奨します。

20. 研究指導教員一覧を確認のうえ、出願期間の 1 カ月前までに、下記問い合わせ先にメールで問い合わせてください。

問い合わせ先：琉球大学人文社会学部学務係

E-Mail：hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

備考：メール件名を「研究指導に関する事前相談」とし、メール本文に該当する専門分野の担当教員名を明記してください。

【注意事項】

- ・事前相談は任意であり、実施の有無は合否に影響しません。
- ・相談はあくまで研究テーマや研究環境の確認であり、出願指導は行いません。
- ・相談内容に関する特別扱いは一切行いません。
- ・希望する教員がない場合や相談できない場合も出願は可能です。

8. 試験の日時及び試験場

試験日	試験場	科目	時間	摘要
令和8年 2月7日 (土)	文系総合 研究棟 { 試験室は 別途指定 }	外国語科目	10:00～12:00	一般選抜の受験者
		小論文	10:00～12:00	社会人及び 外国人受験者
		口述試験	13:30～	全 員

《注1》 筆記試験の解答にはシャープペンシル・鉛筆のみ使用可能とし、ボールペンは使用不可とします。

9. 選抜方法（入試科目）

本学大学院では、入学志願者の能力・意欲・適性、ならびに学修の成果を多面的・総合的に評価するため、以下の選抜方法に基づいて合否判定を行います。

【選抜方法】

書面審査

- ・提出された志望理由書、成績証明書、研究計画書、修士論文、その他提出書類等の内容を基に、学修の成果、研究への意欲・適性、指導体制との適合性を評価します。

外国語

- ・文献（論文・書籍・記事）を正確に読み取り、内容を理解できるかを評価します。
- ・語彙・構文の理解に加え、論理構成や主張の把握が適切であることを重視します。
- ・設問に対する回答の正確性・論理性・表現の明瞭さなども評価対象とします。

小論文

- ・与えられたテーマについて論理的かつ的確に考察し、表現できる力を評価します。
- ・内容の独創性、論理構成、表現力を重視します。

口述試験

- ・志望動機、研究計画の妥当性、専門分野への理解、将来の展望等について問います。
- ・コミュニケーション能力や学問的な適性、研究テーマの指導可能性も評価対象とします。

【合否判定】

各選抜項目（書面審査、筆記試験、口述試験）の評価結果をもとに合計得点を算出し、上位から順次合格者とします。合計得点が60%未満の場合は不合格とします。

選抜区分	配 点				
	書面審査	筆記試験		口述試験	合 計
		外国語	小論文		
一般	200	100		200	500
社会人	200		100	200	500
外国人留学生	200		100	200	500

（1）一般選抜

書 面 審 査	筆 記 試 験 《注》	口 述 試 験
修士論文またはその他提出書類について行います。	外国語（英・独・仏・西・中・韓国語）から1科目	修士論文及び研究計画書等の内容について行います。

《注》 語学辞書の持ち込み可（ただし、電子辞書は除く。）

（2）社会人特別選抜

書 面 審 査	筆 記 試 験	口 述 試 験
修士論文またはその他提出書類について行います。	小 論 文	修士論文及び研究計画書等の内容について行います。

（3）外国人留学生特別選別

書 面 審 査	筆 記 試 験 《注1・2》	口 述 試 験
修士論文またはその他提出書類及び日本語力調査書	小 論 文	修士論文及び研究計画書等の内容について行います。

《注1》 語学辞書の持ち込み可（ただし、電子辞書は除く。）

《注2》 筆記試験・口述試験とも日本語で行います。

10. 障がい等のある入学志願者（受験時における合理的配慮等）

障がい等を有する者、疾病・負傷等により受験上の配慮を必要とする志願者は、あらかじめ本学障がい学生支援室に「障がい等のある入学志願者の受験時における合理的配慮申請書」を郵送にて提出してください。

申請された配慮事項については、本学において検討し、その結果を「受験時における合理的配慮の検討結果通知書」により郵送にて通知します。「検討結果通知書」の受領後は、記載事項を確認のうえ同封の書類をご返送ください。

また、上記手続きには2～3週間を要します。合理的配慮の内容によっては、対応にさらなる時間を要する場合があります。事前相談は随時受け付けておりますので、早めの相談、申請書の提出をお願いします。

受験時に限らず、入学後における修学上の配慮希望については、随時相談を受け付けておりますので、以下の連絡先までご相談ください。

(1) 申請期限 令和7年11月21日(金)(消印有効)

※申請期限後の書類については、受理しませんのでご注意ください。

なお、申請期限後に不慮の事故等(交通事故、負傷、発病等)のため、受験上の配慮を希望する場合は、下記問い合わせ先までご相談ください。

(2) 申請方法

以下の書類を、障がい学生支援室へ「簡易書留」又は「レターパックプラス」で郵送してください。

①「障がい等のある入学志願者の受験時における合理的配慮申請書」(本学指定の様式)

②「医師からの意見書」(本学指定の様式)

③その他相談する際に必要な参考資料

上記①及び②の本学指定の様式は、本学障がい学生支援室ホームページ(<https://g-support.std.u-ryukyu.ac.jp/>)「支援を希望される皆さまへ」よりダウンロードできます。

※必要に応じて、追加資料の提出を依頼することもあります。

※本学が必要と判断した場合は、志願者、保護者又はその立場を代弁し得る出身学校担当者等との面談等を行います。

問い合わせ先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

全保連ステーション(大学会館)2階

琉球大学障がい学生支援室

電話：098-895-8750 FAX：098-895-8791

E-mail：g-support@acs.u-ryukyu.ac.jp

11. 合格者発表

令和8年2月27日(金)16時

本学文系総合研究棟に掲示するとともに、琉球大学人文社会学部HPに掲載及び合格者へ郵送にて通知します。

人文社会学部HP(<https://www.hs.u-ryukyu.ac.jp/>)

12. 入学手続等

(1) 入学手続期間

入学手続期間等については、令和8年3月下旬を予定しております。

(2) 入学料及び授業料

入学料は銀行振込です。詳細は入学手続案内で通知します。

入学科 282,000 円（予定額）

授業料（前期分）267,900 円（年額 535,800 円）（予定額）

（注）①上記については予定額であり、入学時及び在学中に金額の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

②授業料については、本人の申し出により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。

③琉球大学には入学科の免除又は徴収猶予、あるいは授業料の全額又は半額を免除する制度があります。対象者については、合格者に送付する「入学手続案内」で詳しく説明します。また、所定の免除申請手続きを行うことにより、免除又は徴収猶予の可否が決定されるまでの間、入学科又は授業料の徴収を猶予します。

入学手続きの詳細については、別途合格者に対して「入学手続案内」を送付します。

13. 安全保障輸出管理

琉球大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて、「国立大学法人琉球大学安全保障輸出管理規程」を定め、技術の提供及び貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し、厳格な審査を実施しています。

規制されている事項に該当する場合は、希望する教育・指導が受けられない場合や、希望する研究活動に制限がかかる場合があるため、外国人留学生の方はなるべく出願前に指導を受けようとする教員と連絡を取るようしてください。

14. 修学のための諸制度

長期履修制度について

職業を有している等の事情により、標準修業年限で修了することが困難である学生を対象に、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修させて学位の取得ができるようにする制度です。申請に基づき、研究科が審査し、最長 6 年間の修業年限で在学し、計画的に課程を修了することになります。

なお、長期履修学生として認められた期間の授業料は、標準修業年限の 3 年間（6 学期）の総額を在学学期で除した額を分割して支払うことになります。

本制度を希望する学生は、事前に希望指導教員に長期履修の必要性を説明し、履修計画を相談した後、承諾を得て入学手続期間内に申請してください。

15. 個人情報の取扱い

本研究科が入学者選抜を通じて取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- （1）合格者の氏名等を入学手続きに関わる業務で利用します。
- （2）入学手続き者の氏名等を入学後の学籍管理等、修学に関わる業務で利用します。
- （3）入学手続き者及び学資負担者の住所・氏名等を授業料徴収など納入管理に関わる業務で利用します。

- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報、入学料免除・授業料免除及び奨学生遠考など、修学支援に関わる業務で利用します。
- (5) 出願書類の不備等がある場合、その訂正・補完を速やかに行っていただくため、本学を受験されること及び出願書類に不備等があることを、保護者又は勤務先等に通知する場合に利用します。
- (6) 個人が特定できないように統計処理したデータを、入学者選抜に関する調査・研究などに利用します。

※本研究科が入学者選抜を通じて取得した個人情報は、上記及び個人情報の保護に関する法律第18条、第27条及び第28条に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

16. 問い合わせ先

琉球大学人文社会学部学務係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL 098-895-8188 (直通) FAX 098-895-8187

E-Mail hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

17. 入試統計（志願者数、合格者数等）の公開

入試に関する統計を以下より公開しています。

https://www.u-ryukyu.ac.jp/admissions/passed/#graduate_school_etc_examination

18. 過去問の開示

受験希望者のために前年度の入試問題を閲覧公開しています。

閲覧時間：9:00～17:00（12:00～13:00を除く）

閲覧場所：人文社会学部事務室

閲覧に必要なもの：身分証等

※窓口での閲覧のみ可。複写（コピー等）や写真撮影は禁止。

19. 成績開示請求

受験生本人から請求があった場合に限り、下記要領のとおり本人に対して開示します。

請求期間：令和8年2月27日（金）～3月6日（金）

請求方法：所定の申請書を用いて申請してください。

開示内容：合計得点

開示方法：請求者へ後日送付します。

20. 研究指導教員一覧

教 員	専 門 分 野
後藤 雅彦	考古学
宮平 勝行	コミュニケーション学
山城 新	アメリカ文学、環境文学
稲村 務	社会人類学
新城 郁夫	日本近代文学
藤田 陽子	環境経済学
宮内 久光	地理学
鳥山 淳	沖縄近現代史
Davis Christopher	特定言語研究
名嶋 義直	批判的談話研究
麻生 伸一	琉球史
呉 世宗	朝鮮文学
島袋 盛世	歴史言語学
中本 謙	日本語学・琉球語学

21. 開設授業科目および授業科目の内容

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化総合演習Ⅰ・Ⅱ	各2	幅広い視野に立つ研究を志向するよう促す目的で教員全員が担当して行う演習形式の授業である。1年次の院生すべてがⅠを前期に、Ⅱを後期に受講する必修科目であり、院生は博士論文作成研究として予定している課題もしくは認識について複数回に分けて報告し、質疑応答を受けると同時に自由討論に参加し、視野を広げる。なお、この授業は他の教員や院生も参加できる開かれたものにする。	全教員
比較地域文化総合演習Ⅲ・Ⅳ	各2	幅広い視野に立つ研究を志向するよう促す目的で教員全員が担当して行う演習形式の授業である。2年次の院生すべてがⅢを前期に、Ⅳを後期に受講する必修科目であり、院生は博士論文作成研究として進めている課題もしくは認識について複数回に分けて報告し、質疑応答を受けると同時に自由討論に参加し、視野を広げる。なお、この授業は他の教員や院生も参加できる開かれたものにする。	全教員
比較地域文化特別研究Ⅰ	2	比較地域文化総合演習Ⅰを履修した1年次の院生を対象とし主指導教員が中心となって、必要に応じ同学の博士課程後期院生を交えて行う演習形式の授業である。博士論文の構想や先行研究の把握、関連資料の状況、必要なフィールドワーク等について議論し、検討する。	後藤雅彦 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳 島袋 純 Davis Christopher 名嶋義直 麻生伸一 呉 世宗 島袋盛世 中本 謙
比較地域文化特別研究Ⅱ	2	2年次前期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主指導教員が中心となって、必要に応じて同学の博士課程後期院生を交えて行う。主指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。研究計画をほぼ決定し、研究に必要な諸資料の検討やフィールドワーク等の展望について議論し、検討する。	後藤雅彦 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳 島袋 純 Davis Christopher 名嶋義直 麻生伸一 呉 世宗 島袋盛世 中本 謙

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化特別研究Ⅲ	2	2年次後期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主指導教員が中心となって、必要に応じ同学の博士課程後期院生を交えて、行う。主指導教員が必要と認める時は、他の教員や博士課程前期院生が出席する。諸資料の検討やフィールドワーク等の達成された成果について受講者に適宜報告を求め、議論し、検討する。	後藤雅彦 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳 島袋 純 Davis Christopher 名嶋義直 麻生伸一 呉 世宗 島袋盛世 中本 謙
比較地域文化特別研究Ⅳ	2	3年次前期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主指導教員が中心となって、必要に応じ同学の博士課程後期院生を交えて、行う。主指導教員が必要と認める時は、他の教員や博士課程前期院生が出席する。博士論文の構成やその根拠となる諸資料・理論について議論し、検討する。	後藤雅彦 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳 島袋 純 Davis Christopher 名嶋義直 麻生伸一 呉 世宗 島袋盛世 中本 謙
ことばと相互行為特論	2	コミュニケーション行動が織りなす人物像や社会像、文化像を琉球を含む様々な言語共同体を取り上げて比較分析する。会話の組織化、談話の構造、ことばの文化的意味、スピーチの文化コード、文化的認知プロセスなどを対人間のことばと社会的相互行為を精査することによって明らかにする。また、こうしたテーマについてディスカッションを重ね、ことばと社会的相互行為の文化独自性や普遍性について考察する。英文の資料を用い、ディスカッションの一部は英語で行う。	宮平勝行
ことばと相互行為演習	2	ことばと社会的相互行為の研究方法には主として語用論、会話分析、(批判的)談話分析、相互行為分析、ことばの民族誌などが挙げられる。いずれかひとつあるいは複数のアプローチに焦点を当て、一連の研究プロセスを実践を通して学ぶ。さらに、各研究方法の哲学的基盤や理論的背景、課題、最新の傾向などについて琉球を含む多様な言語文化を対象にした事例研究を読み解きながら理解を深める。この授業は受講生によるフィールドレポートを中心に演習形式で行う。	宮平勝行

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
アジア文化人類学特論	2	中国および東南アジア諸国を中心としたの文化人類学的研究。アジアの民族誌的研究を踏まえた文化人類学的方法論や研究動向について講義する。	稲村 務
アジア文化人類学演習	2	中国および東南アジアを中心とした文化人類学的研究について民族誌的研究や文化人類学的方法論について演習形式で学ばせる。	稲村 務
アジア物質交流史論特論	2	東アジアを中心とした物質交流史論に関する考古学研究の視点と方法を検討する。交流の考古学研究にあたっては、そのモノ自体の分析、すなわちモノの製作から使用、廃棄までの一連の流れの中で分析を行い、その時代性、地域性、背後にある人の活動、さらに交流による地域文化の変化を如何に読みとるかが問題である。琉球列島の歴史的展開の中でも、先史時代に遡って周辺地域との交流が重要な研究テーマとなっており、こうした東アジアにおける具体的な物質交流史を検討の対象とする。	後藤雅彦
アジア物質交流史論演習	2	交流の考古学研究にあたって、そのモノ自体の分析から時代性、地域性、背後にある人の活動、さらに交流による地域文化の変化を如何に読みとるかが問題である。そして、交流の場となった時代、地域は多様なものであり、アジアにおいても交流をテーマにした考古学研究は盛んである。そこで、演習形式を含め、多様な物質交流史の研究事例を検討しながら、交流のあり方に関する比較研究や方法論自体の検証を進め、物質交流史論の課題を検討する。	後藤雅彦
沖縄近現代文学特論	2	沖縄近現代文学に関する諸テーマに関して、歴史社会的背景と作品の構造と特質の関連とを検討する。	新城郁夫
沖縄近現代文学演習	2	沖縄近現代文学に関する諸テーマに関して、歴史社会的背景と作品の構造と特質との関連を理論的かつ実証的に考察する。	新城郁夫
環境思想特論	2	環境思想研究は、環境変化と社会、経済、政治、芸術の変動が相互に影響しあうという前提に成り立っている。本講義では主要なアメリカ環境思想を主軸に、政治、宗教、哲学、文学的言説をとおして多面的に構成される環境思想研究の研究史的基礎を学びながら、実際に沖縄に生成する個別・具体的課題を環境思想的観点から応用分析し、環境思想的研究方法を習得する。	山城 新
環境思想演習	2	本講義では、特にアメリカ環境思想を基礎づける理論的枠組みを学びつつ、実際に現代環境問題に関連づけながら、環境思想的課題と展望について考える。特に、第二次世界大戦以降のアメリカ覇権主義・帝国主義の関わりの中で形成される、アメリカ本土内外の事例、あるいは海域を介した環境問題などをとおして、環境問題の脱領域的側面を環境思想的に考える。	山城 新

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
島嶼環境経済特論	2	環境経済学の理論を基礎として、島嶼地域における環境と経済の関係を考察する。島嶼としての地域特性を踏まえながら、島嶼における環境調和型経済社会を実現するための方策について検討する。	藤田陽子
島嶼環境経済演習	2	沖縄をはじめとする小島嶼国・地域を事例として、環境と経済の関係に関わる諸課題の現状を学び、問題解決の方策について検討する。環境経済学の視点を基礎としながら、理論と実際との整合性と乖離について検証し、具体的な問題解決策を探求する。講義は受講生の発表を中心に進め、受講生同士の議論を通して物事を多角的に考察する視野を養う。	藤田陽子
島嶼空間システム特論	2	島嶼空間をシステム（系）として捉え、外部からの様々なインパクトに対してどのように島嶼空間が対応しているかを、島嶼間システムと島嶼内システムの両面において、人口・交通流通、島嶼経済、島嶼社会そして島嶼振興の各事象に関して、理論的に検討する。	宮内久光
島嶼空間システム演習	2	島嶼空間をシステム（系）として捉え、外部からの様々なインパクトに対してどのように島嶼空間が対応しているかを、島嶼間システムと島嶼内システムの両面において、人口・交通流通、島嶼経済、島嶼社会そして島嶼振興の各事象に関して、巡検や現地調査をもとに検討する。	宮内久光
政治学特論	2	沖縄や地域の政治的課題に対して、行政学・地方自治論等の分野を主とする政治学の理論に基づいて分析していく能力の養成を行う。その中でこれまでの政治学的なアプローチの有効性と限界について、吟味を重ねながら、新たなアプローチを模索していく。	島袋 純
政治学演習	2	特に近年の国際関係の変化、移民難民問題を含む国境横断的な人の移動の激化、経済的相互依存の深化、その中での国民国家の変容、自治体政治の変化等を視野に入れ、沖縄や地域の政治的課題に対して、行政学・地方自治論等地域の政治的課題に対して、政治学の理論を具体的に用いて分析する事例的研究を行っていく。	島袋 純
近現代沖縄史学特論	2	沖縄の近現代を考察するうえで重要な諸相を実証的かつ体系的に理解することを目的とする。その際の視点として重視するのは、1920年代以降の沖縄救済論において浮上してきた課題と、戦後に展開される復興・振興をめぐる諸問題との関係性である。その考察を通して沖縄の近現代を貫く問いを見出し、各時期の状況に織り込まれている歴史的な文脈を読み解くことを意図している。	鳥山 淳

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
近現代沖縄史学演習	2	沖縄の近現代を考察するうえで重要な諸相について、関連する資料を精読しながら、そこに見出される歴史的な文脈について検討する。その際に、各履修者の研究テーマや問題関心に引き付けた資料分析を積極的に取り入れ、当該資料に見出される歴史的な課題をどのような視点で検討すべきなのかを考察する。その作業を通して、沖縄の近現代に関する歴史的な考察力を深めることを意図している。	鳥山 淳
特定言語研究特論	2	世界中で6000以上の言語が現在話されているものの、琉球諸語も含めてその多くがまだ十分に記述されておらず、消滅の危機に瀕した状態に置かれている言語も少なくない。この授業では、特定の言語（特に、少数言語や十分に記述されていない言語）を対象にした研究と記述の行い方を学ぶ。授業では実際に特定の言語のデータを収集し、その記述と分析を行う。	Davis Christopher
特定言語研究演習	2	フィールドワークなどを通して記述してきた言語の特徴を探り、先行研究に基づいて理論言語学の立場からその特徴を分析し、他言語と比較しながらその記述と分析をさらに深める方法を学ぶ。各受講生が特定の言語の記述における特定のトピックを選択し、そのトピックに絞って自らの研究を進める。授業では、そのトピックに関係する先行研究やフィールドワークで収集したデータについての発表を行う。	Davis Christopher
批判的談話研究実践特論	2	欧州を中心に行われている学際的研究「批判的談話研究（Critical Discourse Studies; CDS）」の主な理論や手法、社会問題を批判的に検討するためのアプローチなどを、文献の読解を通して学び、それを通して批判的リテラシーを伸ばす。	名嶋義直
批判的談話研究実践演習	2	欧州を中心に行われている学際的研究「批判的談話研究（Critical Discourse Studies; CDS）」の主な理論や手法、社会問題を批判的に検討するためのアプローチなどを検討し、実際に自分自身でデータを集めて言説分析を行い、それを受講生間で議論する。それを通して批判的リテラシーを伸ばす。	名嶋義直
アメリカ太平洋史特論	2	アメリカと太平洋島嶼地域との関係について、帝国史研究の成果をもとにしながら、主に「軍事基地と地域社会」という視点から、歴史的に講義形式で考察する。	池上大祐
アメリカ太平洋史演習	2	アメリカと太平洋島嶼地域との関係について、帝国史研究の成果をもとにしながら、主に「軍事基地と地域社会」という視点から、演習形式で、英語論文や一次史料を読み解く。	池上大祐
琉球近世史学特論	2	琉球近世史や関連する領域の研究史を確認しながら、基本的な論文や文献、史料を精読し、政治や外交、社会、環境をめぐる諸問題を検討する。	麻生伸一

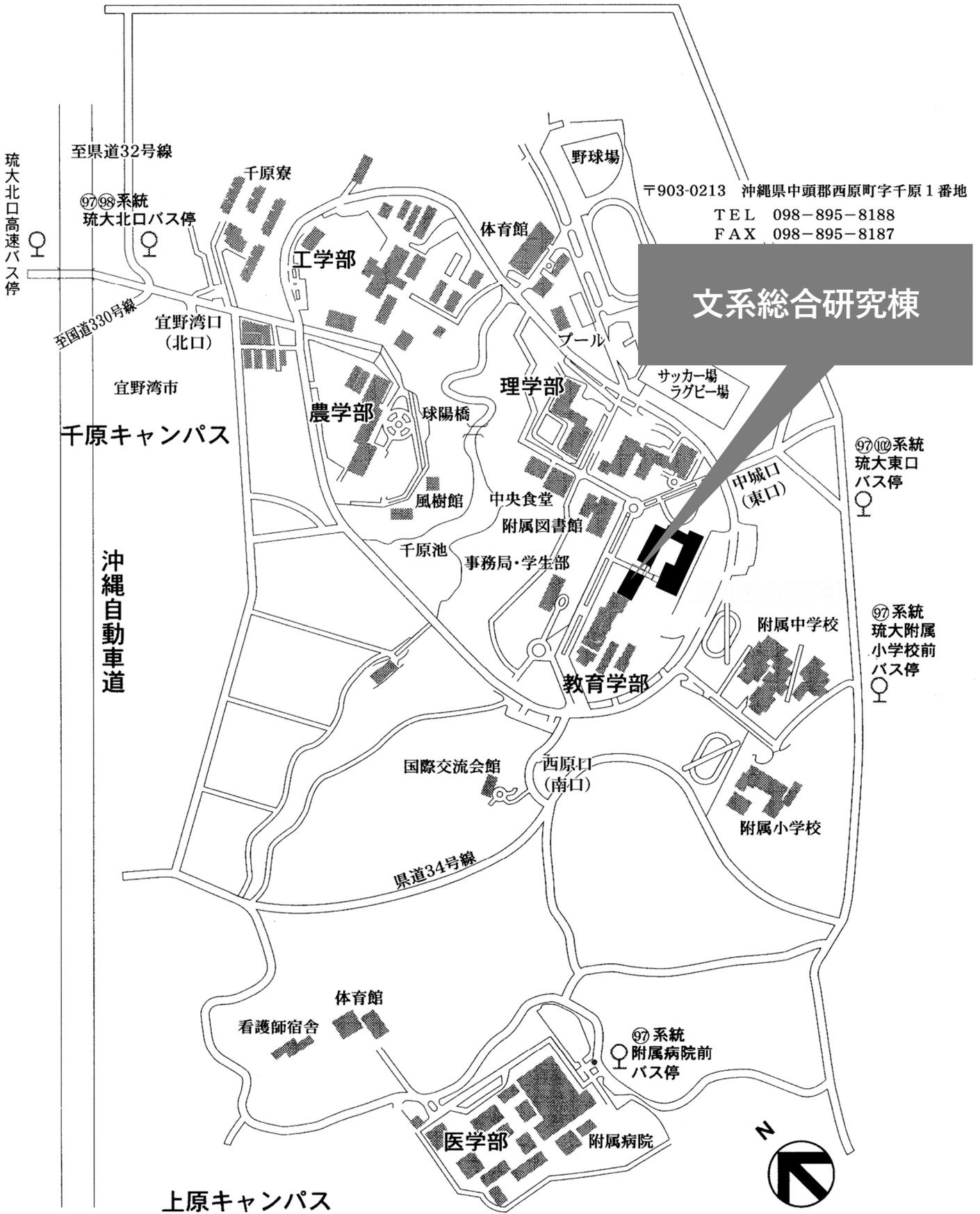
授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
琉球近世史学演習	2	琉球近世史の政治、外交、社会、環境といったテーマから履修生の関心に合わせて課題を設定し検討する。講義では履修生の報告や資料の精読を行う。講義を通して、歴史学の方法と実践を琉球沖縄史の文脈で理解することを目指す。	麻生伸一
朝鮮近現代文学特論	2	在日朝鮮人文学に関する諸テーマに関して、作品と書き手の歴史的社会的背景を検討し、諸作品の構造と言語的内容的特質を検討する。その際、沖縄現代文学などとの比較も視野に入れてながら履修者とともに考える。	呉 世宗
朝鮮近現代文学演習	2	在日朝鮮人文学に関する諸テーマに関して、作品と書き手の歴史的社会的背景を検討し、諸作品の構造と言語的内容的特質を検討する。その際、各履修者の研究テーマや問題関心に引き付けた文献や資料も議論の対象にしてともに考察する。	呉 世宗
歴史言語学特論	2	言語の変化における規則性、特徴、要因などについて基礎的な知識を身につけ、その知識を基に言語の過去を再建する方法、比較方法及び内的再建法について学ぶ。	島袋盛世
歴史言語学演習	2	様々な言語に見られる共時的及び通時的変化を分析し、言語の規則性、特徴、要因などについて議論する。また、比較方法や内的再建法を用いて実際に祖語や言語の以前の姿を再建し、言語の変化について考察する。	島袋盛世
記述言語学特論	2	琉球列島をはじめ日本諸方言の現状を把握し、音韻、文法、語彙の面から理論的にその言語の共時態を体系的に明らかにする方法を習得する。	中本 謙
記述言語学演習	2	日琉諸方言の中から資料の少ない地域を選定し、IPA（国際音声字母）を用いた臨地調査を行う。得られた資料を用いて、その言語の音韻、文法、語彙を体系的に明らかにし、その特徴について考究する。	中本 謙
比較地域文化特論 I	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未 定
比較地域文化特論 II	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未 定

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化特論Ⅲ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未定
比較地域文化特論Ⅳ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未定

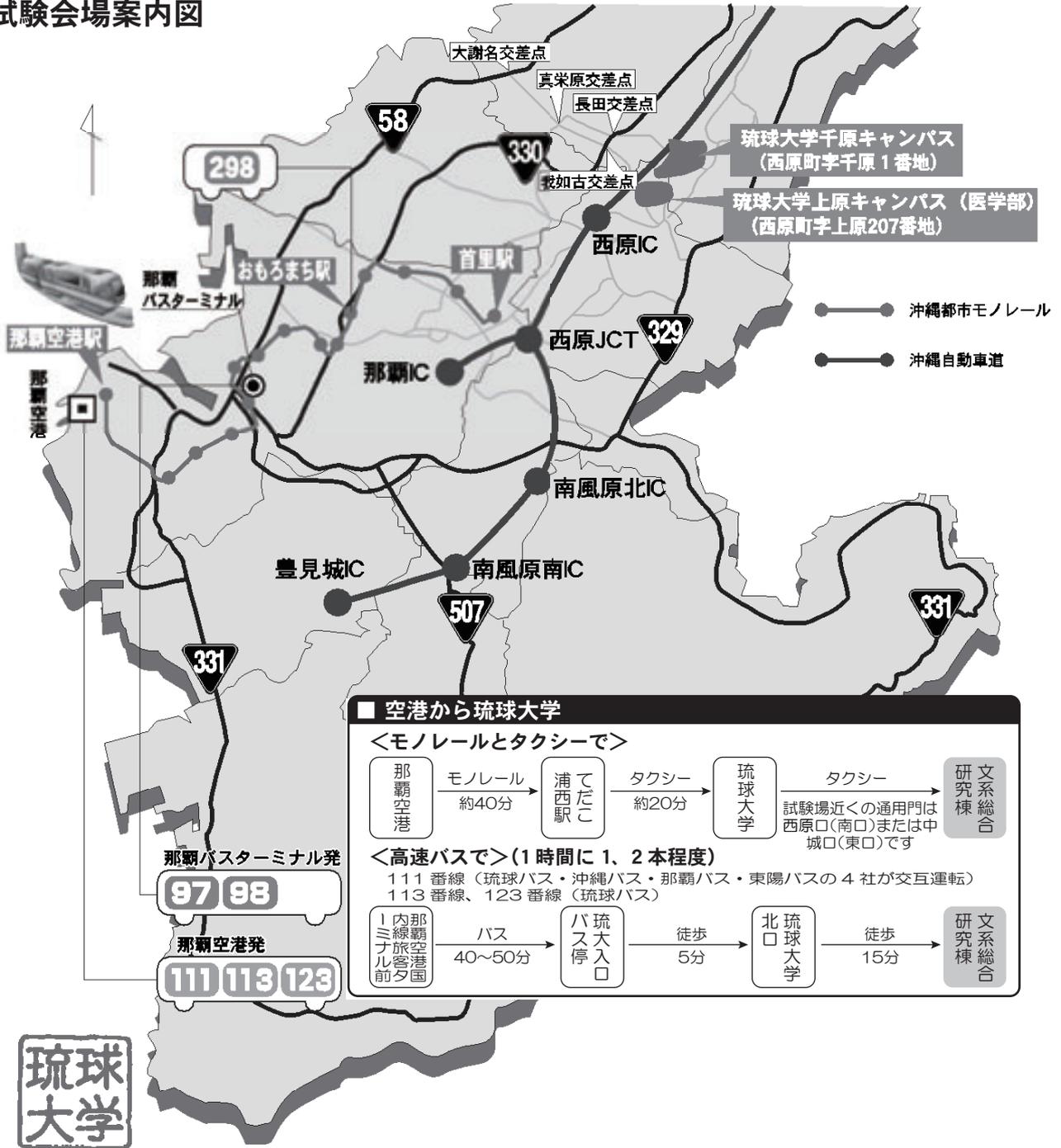
* 研究指導教員のみが比較地域文化特別研究Ⅰ～Ⅳの担当する。

* 学期ごとに開設される授業科目については時間割配当表を配布する。

建物配置図



琉球大学（千原キャンパス） 試験会場案内図



■ 空港から琉球大学

<モノレールとタクシーで>

那覇空港 → モノレール (約40分) → 浦西駅 → タクシー (約20分) → 琉球大学 → タクシー → 文系総合研究棟
試験場近くの通用門は西原口(南口)または中城口(東口)です

<高速バスで> (1時間に1、2本程度)
 111番線 (琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運転)
 113番線、123番線 (琉球バス)

那覇バスターミナル発
 那覇空港発

111 113 123

内線旅客ターミナル前 → バス (40~50分) → 琉球大学バス大入口 → 徒歩 (5分) → 北琉球大学 → 徒歩 (15分) → 文系総合研究棟



■ バスターミナルから琉球大学

<路線バス> (各20~40分に1本程度 / 所要時間: 97番→約60分 98番→約50分)

【琉大東・北口方面 97番線】

バスターミナル → バス (国際通り(牧志) - 儀保(首里) - 琉大附属病院 経由) → 琉大東口 → 徒歩 (5分) → 文系総合研究棟

【琉大北口方面 98番線】

バスターミナル → バス (国際通り(牧志) - 真栄原 - 冲国大前 経由) → 琉大北口 → 徒歩 (15分) → 文系総合研究棟